様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３１３１１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１３５８９

研究課題名（和文）無形文化遺産をめぐる知識人、政府、担い手の諸実践－広東省の水上居民を事例として

研究課題名（英文）Various Practices of Intellectuals, Governments, and Successors Concerning Intangible Cultural Heritage :A Case Study of Woter Floating Residents in Guangdong Province

研究代表者
稲澤　努（INAZAWA, Tsutomu）

尚絅学院大学・総合人間科学系・准教授

研究者番号：３０６３２２２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では中国広東省の元水上居民の文化とされる民俗文化を無形文化遺産（非物質文化遺産）として利用する人々の諸実践を分析した。政府による無形文化遺産としての公認、公認作業に貢献する知識人、歌の担い手、それぞれがどのような意図で活動をしているのかなどを調査・分析した。
　コロナ禍により現地調査で人々の意図を確認することは十分にはできなかった。しかし、すでに一定の知名度を得て、組織化もされている団体に関しては、観光資源としてというよりは、コロナ対策や薬物禁止のキャンペーンなど、政府の広報イベントに動員されるなど、当初の文化の保護や地域の観光振興といった政府や知識人の思惑を超えた動きを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中国の無形文化遺産保護については、これまで多くの研究がなされてきた。これまでは、どのように観光資源化を目指しているか、そこにどんな葛藤があるかを論じるものが多かった。本研究はコロナ禍によりデータの不十分な点は否めないものの、中国の無形文化遺産をめぐる新しい動向を明らかにした点に意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this research, I analyzed various practices of people who use folk culture, which is said to be the culture of former water floating residents in Guangdong, China, as intangible cultural heritage. We investigated and analyzed the intentions of the government official recognition as an intangible cultural heritage, the intellectuals who contribute to the official recognition process, and the singers who perform the songs.
Because of the COVID-19, it was not possible to fully confirm people's intentions through field surveys. However, with regard to groups that have already gained a certain level of name recognition and have been organized, rather than as tourism resources, they are mobilized for government publicity events, such as campaigns against COVID-19 and anti-drug campaigns. We have confirmed moves that go beyond the speculation of governments and intellectuals, such as conservation and regional tourism promotion.

研究分野：文化人類学

キーワード：無形文化遺産　水上居民

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまで申請者は広東省汕尾でのフィールドワークによって、水上居民の陸上がりとそれに付随したコミュニティ形成、および周囲の諸集団とのエスニックバウンダリーの研究をしてきた。

中国では、改革開放政策の実施以降、地方政府を中心に、地方文化の発掘が盛んに行われ、あるものは地域を豊かにする観光資源として、またあるものは人々のアイデンティティを表象するものとして注目されてきた。そうした傾向に加え、近年「無形文化遺産」として、認定、保護、活用しようという動きが活発になり、申請者の研究対象であった水上居民に関しても同様であった。そこで、元水上居民の伝統民俗とされる「漁歌」を中心として、無形文化遺産認定をめぐる地方知識人と地方政府および担い手の実践に着目して研究をしようと考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、中国広東省の元水上居民の「漁歌」「婚姻習俗」などを事例として、無形文化遺産認定をめぐる地方知識人と地方政府および担い手の実践を観察・分析することで、無形文化遺産認定をめぐるポリティクスと人々の文化的実践への影響を明らかにすることである。

汕尾以外にも国家レベル・省レベル・市県レベルで無形文化遺産に認定され、資源化される事例を分析・比較する。それにより、より上級レベルの認定を目指す力学や、そこでの知識人の役割、「水上居民」同士での差異化のなされ方など人々の実践を明らかにすることを目指した。

３．研究の方法

中国広東省の汕尾と高州を中心に現地調査を行い、無形文化遺産をめぐる人々の動きやその意図を調べるという方法を想定していた。2019 年 12 月までは、汕尾と高州、香港などで現地調査を実施し、基礎的データを集めることができた。汕尾では元水上居民により構成される「漁歌隊」をめぐる動向を把握することで、データを収集していた。高州では、元水上居民が集住する地区の民俗文化の把握につとめ、現地で信仰される神様の誕生日のイベントへの参与観察などを実施していた。しかし、2020 年以降、中国への外国人の入国自体が難しくなってしまったため、現地調査は暫時断念し、SNS 上での状況確認などを中心に、情報収集を進めざるを得なかった。

４．研究成果

中国の無形文化遺産保護については、これまで多くの研究がなされてきた。これまでは、どのように観光資源化を目指しているか、そこにどんな葛藤があるかを論じるものが多かった。本研究はコロナ禍によりデータの不十分な点は否めないものの、中国の無形文化遺産をめぐる新しい動向をいくつか明らかにした点に意義がある。

漁歌隊は、地域を宣伝するメディアに登場するなど、地域の観光資源のひとつにもなってはいるが、コロナ対策の宣伝活動や、薬物禁止キャンペーンへの参加など、地域内での政府広報のツールとしても活躍している。こうした活動を通じて、知名度が上昇するとともに、地域内でのプレゼンスも変化してきたと予想される。残念ながら現地調査が十分ではないため、漁歌隊のプレゼンスの変化が、元水上居民への表象をどう変化させたのか（あるいはしていないのか）、元水上居民自身は「水上居民」というラベルを現在どう理解しているのか、それは過去とはどうことなるのか、といった本来解明を目指していた事象を明らかにすることができなかった。

高州においては、比較的「貧しい」ことが多い内陸河川を活動範囲としていた中では、経済的に成功を収めた人々によるコミュニティの動向を把握することができた。高州の元水上居民たちがもつ「独特の民俗」と周囲からみなされるものは、これまでのところ「無形文化遺産」には認定されてはいない。しかし、高州地域において、「冼夫人」信仰が非物質文化遺産に認定されるなど、地域文化を代表する神になっていることを利用し、もともとは「冼夫人」を信仰していなかったにも関わらず、自分たちのコミュニティの神として受け入れ、利用していることが確認できた。これは、無形文化遺産の利用のあり方として大変興味深い。

汕尾においても高州においても、無形文化遺産認定に関わった地方知識人へのインタビューなどは実施できずにいるため、認定をめぐる諸実践を分析するには至っていないのが現状である。これらについては、今後の課題とし、当面は SNS などによる情報収集を継続し、中国での現地調

査が可能になれば実施したいと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 稲澤努	４．巻 7
２．論文標題 高州の水上居民の陸上がりと民俗の変遷	５．発行年 2021年
３．雑誌名 華南研究	６．最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲澤努	４．巻 46
２．論文標題 『客都梅州』の水上居民に関する予備的報告	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会人類学年報	６．最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　6件）

１．発表者名 稲澤努
２．発表標題 中国の『民族』とエスニックグループをめぐる研究動向
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 稲澤努
２．発表標題 高州の水上居民の陸上がりと信俗の変遷
３．学会等名 日本華南学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tsutomo Inazawa
２．発表標題 Reason for live in water
３．学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asia Enviromental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 稲澤努
２．発表標題 中国広東省における食の資源化-汕尾を事例として
３．学会等名 東アジア人類学研究会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 広東二元社区論の再検討―広東省汕尾の事例から
３．学会等名 移動と流行―移民が持ち込んだもの／持ち込んだもの」共同研究「現代中国における内国移動とエスニシティ」2018年度第3回研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 広東汕尾の「客家」と「福ロウ」
３．学会等名 国際シンポジウム『客家エスニシティとグローバル現象』（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 衣錦還郷之径：以広東汕尾為例
３．学会等名 第二届「現代中国的人口移動与社会変遷」国際ワークショップ『移動のハビトゥス：人口流動及其地域性』（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 粤西の水上居民と信仰　研究史の整理と課題
３．学会等名 科研費「中国宗教における聖地巡礼の動態性と近代性―華南西江流域の歴史民族誌を通して」の研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 人の移動とエスニシティ―広東省の小都市の事例から
３．学会等名 愛知大学中国研究所　国際シンポジウム『文化の記憶 ―虚構の力を考える』（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 稲澤　努
２．発表標題 都市を出る人、都市に来る人・戻る人―広東汕尾省の事例から―
３．学会等名 南山大学人類学研究所公開シンポジウム『移動と流行―現代中国のコンタクト・ゾーン』（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

1．著者名 吉野　晃、岩野　邦康、田所　聖志、稲澤　努、小林　宏至	4．発行年 2020年
2．出版社 北樹出版	5．総ページ数 240
3．書名 ダメになる人類学	

1．著者名 高山　陽子 岡本亮輔　稲澤努　山口睦　藤野陽平　大塚直樹　塚原伸治　田中孝枝　丸山宗志　松村公明　小張順弘	4．発行年 2017年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 252
3．書名 多文化時代の観光学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関